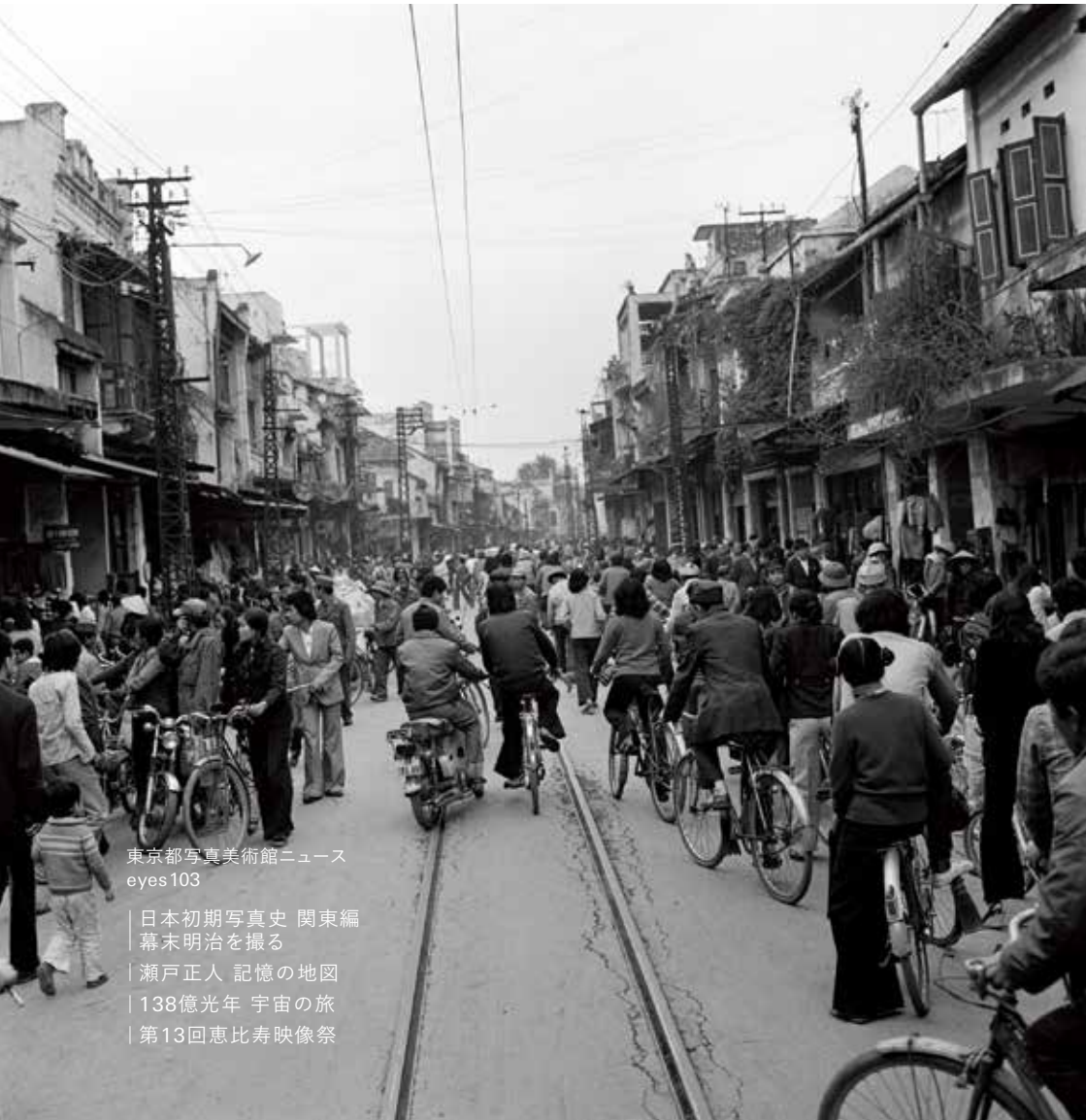


TOP MUSEUM



東京都写真美術館ニュース
eyes103

- | 日本初期写真史 関東編
幕末明治を撮る
- | 瀬戸正人 記憶の地図
- | 138億光年 宇宙の旅
- | 第13回恵比寿映像祭



1



2



3

- 1)〈バンコク、ハノイ〉より《バンコク中央駅の裏通り、早朝》1982-1987年 東京都写真美術館蔵
- 2)〈Living Room Tokyo〉より《(手前)ノイナーさん(28)と同居している友人、バンコク出身》1989-1994年 作家蔵
- 3)〈バンコク、ハノイ〉より《ファンテイ家の一族と母》1982-1987年 東京都写真美術館蔵

が自分の仕事場兼ギャラリー「room 801」を開いていたように、自分たちの発表の場は自分たちの手で作りたくなかったです。編集者の長谷川明さんがPlace Mで作品を見てくれたことがきっかけで、出版社のアイピーシーを紹介してくれて初の写真集『バンコク、ハノイ』も出版できました。

INTERVIEW

瀬戸正人 記憶の地図

Seto Masato: Maps of Memory

12.1 | 火 | - 2021.1.24 | 日 |

日本やアジアのさまざまな地を旅し、地域性の違いや時代を写真に刻んできた写真家・瀬戸正人は、現代日本を代表する写真家の一人です。東京都写真美術館では、デビュー作〈バンコク、ハノイ1982-1987〉から最新作〈Silent Mode2020〉にいたるまで、各時代の代表作を集めた個展「瀬戸正人 記憶の地図」を開催します。

瀬戸は自身の創作活動を「現実と非現実を自由に行き交うことによって見えてくる『記憶の地図』」であるといいます。本展覧会の公式カタログでは、これらの言葉が示す作家としての信条や、作品制作に大きな影響を及ぼした人生の記憶について語られたインタビューを掲載。ここでは、その一部をダイジェスト版として紹介します。

写真体験の原点

処女写真集にまとめられたデビュー作の〈バンコク、ハノイ1982-1987〉には、写真家・瀬戸正人を知る上で欠かせない重要な原体験や出会いが数多く詰まっている。

生まれはタイ国ウドンタニ市。第二次世界大戦でビルマからインドを目指した過酷な「インパール作戦」に参加し、戦後に同市で写真館を開業した父・武治とベトナム人の母・ジンのもと、この地で8歳まで暮らした。一家で帰還した福島県でも写真館を開業した武治は、長男の正人に家業を継がせるべく、幼い頃から暗室作業の手ほどきを行ったという。

瀬戸正人(以下「瀬戸」):自分の家が写真館だった、というのが写真に関わった最初の原因。家を継ぐため、上京して東京写真専門学校(現・東京ビジュアルアーツ)に入学し、2年生のとき新設された森山大道ゼミをとりました。街中の何気ないものをスナップショットする森山さんの姿を見て「プロの写真って、こういうこともあるんだ」と驚きました。写真学校卒業後、実家に戻らず、半年くらい森山さんがイメージショップCAMPで開催していた私塾「森山大道写真塾」に通い、ある時、森山さんが「深瀬昌久さんの事務所で助手を募集しているから、そこで働かないか」と勧めてくれた。ただし、深瀬さんが助手を募集していたのではなく、彼と共同で事務所を持っている広告写真家の岡田正洋さんがアシスタントを欲しがっていた。

助手時代の3年間はとにかく忙しくて自分の時間はほとんど持たず、フリーになった1982年、20年ぶりにタイに帰った。8歳まで暮らしていたタイでの記憶——通っていた小学校や、放課後に友人らと遊んでいた場所など、自分でも驚くほど鮮明に覚えている。

バンコクの作品は、1983年にニコンサロンで発表し、それ以降も撮影を重ね、1987年には自主ギャラリー「Place M」をオープンさせました。森山大道さん

瀬戸流写真術「狩り」に行く写真

自主ギャラリー「Place M」を拠点に、意欲的に作品を発表しながら独自の表現を模索した瀬戸。自らの出自から、さまざまな事情でアジアから東京にやってきた人々の暮らしに興味を持ち制作したのが〈Living Room, Tokyo〉(1989-1994)だ。大型カメラで、彼らの住む部屋の内部を隅々まで描写したこのシリーズは、発表当時から大きな反響を巻き起



〈Picnic〉より 2003年 作家蔵

こした。そして、作品のコンセプトを根気よく説明し、信頼を得て撮影に協力してくれるモデルにアプローチする手法は、〈Picnic〉(2003)、〈Binran〉(2004-2007)にも引き継がれている。瀬戸の写真術は、深い観察と洞察力で獲物をしとめる「狩り」そのものである。

瀬戸:〈Picnic〉を撮り始めて気がついたのは、これは壁のない〈Living Room〉だったこと。カップルはたいてい敷物の上でくつろぎ、2人の世界は、「見えない壁」で仕切られている。靴を脱いで、寝転び、好きな飲みものやお弁当を用意し、ラジカセまで持参するカップルもいる。そんな彼らの世界に、見知らぬ僕が入り込むには様々な工夫や観察が必要でした。大型カメラを持ち運んでいることをモデルに意識させ、正面から近づき、丁寧に説明しながら、珍しい大型カメラで撮ることである種プレッシャーも与えながら撮ったシリーズです。

台湾の「ビンラン・スタンド」をテーマにした〈Binran〉は、台湾の写真家・沈昭良さんの協力で撮影したもの。ビンラン・スタンドはいわば「キオスク」だから、一応、僕なりに気を遣って、撮影に応じてくれるたびに水やビールを買うものだから、撮影中は買い物が増えてしまいました。

〈Fukushima〉への想いと〈Silent Mode〉の挑戦

バンコクやハノイなど縁のあるアジアの地を撮影し、それぞれの異なる風土に自身のルーツを見出した瀬戸の視線は、日本の故郷である福島県にも向けられ、風景を記録するようになったという。そして、東日本大震災による津波と福島第一原子力発電所の事故によって甚大な被害を受けた後も撮影しつづけたことが、〈Fukushima〉(2013)の制作につながった。

瀬戸:小学校2年までタイで過ごし、父の実家のある福島県の大枝村(川内)に来たのは1961年の春。野山に囲まれた畑や田んぼ、阿武隈川の穏やかな流れが僕の原風景です。

福島原発の事故以前から福島の風景は撮り続けてきたけれど、あの事故をきっかけに、福島の見え方や考え方が変わってきたというか、さらに地元に対する愛着が深まった気がします。

そして、本展覧会を契機に公募した方にモデルとして協力いただいた最新作が〈Silent Mode 2020〉。表面に現れる個性を消すことを目指したという本作は、モデル一人一人が自身の内面に到達した表情を捉えた野心的な試みだ。「写真は『記

録』であると同時に『記憶』である」と語る瀬戸。自らの出自を原点としながら多彩な表現を追求してきた彼の挑戦は、現在も進行中だ。

インタビュー&構成
関次和子(東京都写真美術館学芸員)
本稿構成 富田秋子



〈Silent Mode 2020〉より2019-2020年 作家蔵

瀬戸 正人 せと・まさと

1953年、タイ国ウドンタニ市に生まれる。1961年に父の故郷、福島県に移り住む。1975年、東京写真専門学校(現・東京ビジュアルアーツ)卒業。森山大道氏の紹介で、岡田正洋写真事務所に勤務、同時に深瀬昌久氏の助手を務める。1987年自らの発表の場として、ギャラリー〈Place M〉を開設。以降、写真集『〈バンコク、ハノイ〉1982-1987』で日本写真協会新人賞受賞をはじめ、第21回木村伊兵衛写真賞を受賞、1999年『トオイと正人』で第12回新潮学芸賞受賞など多数。

瀬戸正人 記憶の地図

Seto Masato: Maps of Memory

2F | 12.1 | 火 | - 2021.1.24 | 日 |

瀬戸正人(1953-)はタイ国ウドンタニ市に、日本人の父とベトナム人の母の元に生まれ、61年に父の故郷である福島県に移り住みました。東京写真専門学校(現・東京ビジュアルアーツ)卒業後、81年よりフリーランスの写真家として活動を始め、96年には、特異な視点で都会に生きる人々を捉えた〈Silent Mode〉、〈Living Room Tokyo 1989-1994〉で第21回木村伊兵衛写真賞を受賞、現代日本を代表する写真家の一人として高い評価を得ています。

タイと日本を往還しながら、半世紀以上にわたりアジア各地の人々の暮らしや表情、風土や自然、社会にレンズを向けてきた瀬戸は、「写真は『記録』であると同時に『記憶』でもある」と語ります。本展で紹介する写真群は、瀬戸自身の記憶とともに、何層にも折りたたまれた「記憶の地図」となって、見る者の前に鮮やかに浮かび上がらせることでしよう。

本展は、デビュー作〈バンコク、ハノイ1982-1987〉から最新作〈Silent Mode 2020〉にいたる各時代の代表作によって、瀬戸が見たアジアの表情を紹介します。

[主催] 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 / 読売新聞社 / 美術館連絡協議会 [特別協賛] 東京都写真美術館支援会員 [協賛] ライオン / 大日本印刷 / 損保ジャパン / 日本テレビ放送網 [協力] キヤノンマーケティングジャパン / イルフォード・ジャパン [観覧料] 一般700円 ほか 各種割引あり ※1月2日(土)、1月3日(日)および1月21日(木・開館記念日)は無料。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、入場規制があります。

※事業はやむを得ない事情で変更することがございます
最新情報はホームページをご確認ください



〈Binran〉より2004-2007年 AKIO NAGASAWA GALLERY 蔵



〈Fukushima〉より《会津若松市》2013年 東京都写真美術館蔵

日本初期写真史 関東編 幕末明治を撮る

History of Early Japanese Photography: Kantō Region Images of Japan, 1853-1912

3F 12.1 | 火 | - 2021.1.24 | 日 |

東京都写真美術館では、日本における写真文化の始まりをご紹介しますために、毎年、初期写真に焦点を当てた展示を行っています。本展示会は、高橋則英氏(日本大学芸術学部写真学科教授)の監修のもと、幕末明治期における関東地方の写真文化をひもとく展示会です。

本展は三章構成とし、一章では、欧州で発祥した写真が日本において普及するまでの歴史と、当時の写真技術を紹介します。二章では、関東地方を訪れた写真家や写真技術者の活躍を展示し、さらに一都六県で開業した写真家たちを紹介します。最終章では、ペリー来航時の肖像写真から建設中の東京駅まで、激動の関東地方の様子を、バラエティに富んだ幕末明治の写真作品で展示します。

【主催】東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／読売新聞社／美術館連絡協議会 【協賛】ライオン／大日本印刷／損保ジャパン／日本テレビ放送網
【観覧料】一般700円 ほか 各種割引あり ※1月2日(土)と3日(日)および1月21日(木・開館記念日)は無料。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、入場規制があります。



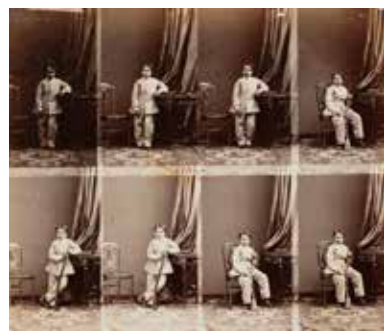
制作者不詳《(東京向島)》明治中期 鶏卵紙に手彩色 東京都写真美術館

日本写真の起源に深く関わる関東の初期写真群を一堂に会し、その積層する写真文化を俯瞰する貴重な機会を、どうぞお楽しみください。



下岡蓮杖《(相撲)》
慶応4-明治4(1868-71)年頃
鶏卵紙 東京都写真美術館

- 1) ハーベイ・ロバート・マークス《偵兵衛(清太郎)像》1851-52年頃 ダゲレオタイプ 川崎市市民ミュージアム
- 2) 《アメリカン・ダゲレオタイプカメラ(ルイス・タイプ)》1850年代初頭 ガラス、鉄、真鍮、木 東京都写真美術館
- 3) アンドレ＝アドルフ＝ウジェーヌ・ディズデリ《(8分割した画面でとらえた少年像)》元治元(1864)年頃 鶏卵紙 東京都写真美術館
- 4) ナダール《第二回遣欧使節 副使 河津祐邦》元治元(1864)年 鶏卵紙 東京都写真美術館



第一章 初期写真 抄史

写真発明の起点は、18世紀末に遡り、1839年にフランスで発明されたダゲレオタイプは肖像や風景の記録に用いられ、欧米の人々を魅了しました。イングランドで発明されたカロタイプは、一度に撮影で何枚も同じ写真を得ることができる画期的な技術の発明でした。1870年代末からはゼラチン乾板の普及によって瞬間撮影も可能になります。

日本では、天保14(1843)年に長崎で写真器材一式の輸入が試みられ、5年後の再挑戦で成功。薩摩藩によって写真技術の研究が進められ、川本幸民の『遠西奇器述』に「直写影鏡ダゲウロテービー」として紹介されています。欧米各国と条約を締結した日本は次々と使節団を派遣し、彼らは現地で撮影した肖像写真を江戸へ持ち帰り、写真の普及に貢献しました。

開港した横浜には日本初の写真館が登場し、ここで写真術を取得した鶴岡玉川が日本人初の写真家として江戸で開業します。文久2(1862)年には横浜で下岡蓮杖が、長崎で上野彦馬がそれぞれ開業しました。彼らはコロディオン湿板方式を用い、アンブロタイプや鶏卵紙のプリントを作りました。彼らを師とする第二世代が慶応～明治初年に開業し、更に弟子を輩出するかたちで写真文化が日本に定着していきます。

初期写真の 主な写真技法

ダゲレオタイプ Daguerreotype

最も早く公表された写真術。銀メッキされた銅板の上に画像を形成します。フランス人のダゲール(Louis Jacques Mandé Daguerre 1787-1851)が考案し、1839年1月に発表しました。この年が写真発明の年とされています。感光面をレンズ側から鑑賞するため左右逆となる画像は解像度が高く、美しく鮮明なもので、見る角度によってポジにもネガにも見えます。肖像写真に多く用いられ、大流行した写真術です。

カロタイプ Calotype and Salted paper

最も早く公表されたネガ・ポジ方式の写真術。英国のタルボット(William Henry Fox Talbot 1800-77)が考案した、紙を支持体とした感光材料による撮影技法。ギリシャ語のカロス「美しい」から命名された方式で、発明者の名前からタルボタイプとも呼ばれます。ネガ原板の紙の繊維により、ダゲレオタイプに比べると鮮明さを欠きますが、建造物や遺跡、風景などの記録だけでなく、肖像写真にも使用されました。また単一の原板から多数の印画が作れるという利点を持ちます。

コロディオン湿板方式 Wet collodion process

ガラス板を支持体とする実用的な撮影技法。一度の撮影で一枚しかできないダゲレオタイプと、紙の繊維のため鮮明さを欠くカロタイプ、それぞれの短所を改良すべく考案されました。日本における実用的な意味での写真の技術は、この湿板方式から始まりました。鶴岡玉川や上野彦馬、下岡蓮杖らが開国後に来日した外国人から湿板写真を学び、文久年間(1861-63年)に最初の職業写真家として開業しました。

アンブロタイプ Ambrotype

コロディオン湿板方式が発表されて間もなく、この方式を応用して、背後に黒い布や紙を置いたり、裏に黒いニスを塗るなどで画像をポジ像に見せる方法が考案されました。この写真は、欧米ではダゲレオタイプの廉価版として普及し、ダゲレオタイプと同様なケースで装丁されました。日本では桐箱に入れて顧客に手渡され、「ガラス写し」あるいは「ガラス生撮写真」などと通称されました。

ゼラチン乾板 Gelatin dry plate

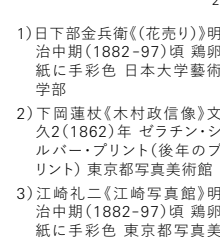
ガラス板に薬品を塗り、濡れたまま撮影しなくてはならないコロディオン湿板方式に対し、乾いた状態で使用できるガラス支持体の感光材料を乾板(かんばん)と呼びます。これにより写真家は撮影の現場での暗室作業から開放され、感光板を自製する必要がなくなりました。日本には明治16(1883)年頃に最初のスワン乾板が輸入されたといわれています。

第二章 関東の 写真家

関東一円を起点のひとつとして日本の写真文化は普及していきます。文久3(1863)年にはフェリーチェ・ベアトが訪日し、外国人居留地があった横浜(現・神奈川県)で、日本の風俗を紹介する手彩色の写真を加えた作品を制作しました。ベアトの元で研鑽したのが、日下部金兵衛です。彼らの作例をはじめ、手彩色によるカラー写真は明治期の重要な技術でした。

また、明治初期には、化学者レオン・ポエルによる横須賀製鉄所の作例が生まれたり、東京では浅草や銀座などの繁華街に写真館がオープンしたりと、さまざまに写真が制作されていきました。埼玉の熊谷、茨城の水戸、栃木の日光市、千葉の千葉市に、それぞれ明治初年に写真館が誕生し、群馬でも明治10(1877)年に富岡で写真館が開業しました。

写真家だけでなく、さまざまな人々が写真文化と交わり、変わりゆく時代の姿を大切に残しました。



- 1) 日下部金兵衛《(花売り)》明治中期(1882-97)頃 鶏卵紙に手彩色 日本大学藝術学部
- 2) 下岡蓮杖《木村政信像》文久2(1862)年 ゼラチン・シルバー・プリント(後年のプリント) 東京都写真美術館
- 3) 江崎礼二《江崎写真館》明治中期(1882-97)頃 鶏卵紙に手彩色 東京都写真美術館

関東の写真家たち

埼玉

吉原秀雄
小川一真の師匠。磐梯山の噴火(明治21年)を撮影。

東京

鴉飼玉川
日本人初の写真家として知られる。

神奈川

オリソン・フリーマン
日本初の商業写真家。長崎の上野彦馬と並び日本の写真開祖の一人。多くの弟子を輩出。
フェリーチェ・ベアト
日本の名勝と風俗を欧米に紹介。



群馬

小川一真
富岡製糸場の前で開業。写真印刷で成功し、東京駅開業にむけて鉄道院(のちの日本国有鉄道、現JR)が制作したアルバムを撮影。

栃木

片岡如松
横山松三郎の弟子とされる。横山が肖像を撮っている。荒廃する江戸城を撮影し江戸文化の記録を今に遺した。

茨城

宇佐美竹城
下岡蓮杖の孫弟子とされる。

千葉

豊田尚一
千葉市本町でスタジオを開業し主に肖像を撮影。

第三章 初期写真に 見る関東

江戸が東京になっても、民衆の暮らしは大きく変わることはなく、日本家屋に住み、和服で生活をしていました。欧米の人々は日本のめずらしい風習・風俗やエキゾチックな風景に強い興味を抱いていました。それに応えるべく訪日外国人や日本人写真家たちが、関東各地で数多くの写真を撮影しました。

この章では、同じ被写体を複数の写真家が撮影した写真も展示します。写真が雄弁に語り出す物語を読み解いていくことは、初期写真を鑑賞する醍醐味といえるでしょう。

関東各地で誕生した写真家たちは、地域や公的機関の要請に基づいて写真を制作するようになりました。彼らの仕事は、すべて関東地方で制作された写真であり、関東地方の人の手に伝えられました。そして度重なる戦乱や災害を生き抜き、100年の時を超えて私たちの眼前に存在しているのです。



- 4) フェリーチェ・ベアト《江戸三田の綱坂》文久3(1863)年 鶏卵紙 東京都写真美術館
- 5) 宮内幸太郎《第二回全国写真師大会記念撮影》明治44(1911)年 コロタイプ印刷 東京都写真美術館
- 6) 玉村康三郎・騎兵衛《東京、上野》明治中期頃 鶏卵紙に手彩色 東京都写真美術館
- 7) 田中武あるいは江崎礼二《(足場を組んだニコライ教会堂)》明治22(1889)年 ゼラチン・シルバー・プリント 個人蔵
- 8) 宮内幸太郎《中央停車場建築》明治44(1911)年 ゼラチン・シルバー・プリント 横須賀市自然・人文博物館



ペリー来航時にエリファレット・ブラウン・ジュニアによって撮影された肖像写真【国指定重要文化財】を出品します。(展示替え有)

左)《黒川嘉兵衛像》嘉永7(1854)年 個人蔵・日本大学藝術学部管理
展示期間:2020年12月1日(火) - 2020年12月27日(日)

右)《田中光儀像》嘉永7(1854)年 個人蔵・東京都写真美術館管理
展示期間:2021年1月2日(土) - 2021年1月24日(日)



鶏卵紙 Albumen paper

1850年に発表された、卵白を感光物質の媒体として使用する印画紙。幕末から明治時代中期にかけて、日本においても中心的に用いられた印画紙。印画紙をネガと密着して太陽光で焼き付けるだけで画像が生じる、焼出し紙です。コロディオン湿板方式が発表されると、このガラスネガと鶏卵紙の組み合わせが19世紀後半の約30年の間、標準的な写真術として普及しました。この一方で、湿度や光の影響による画像濃度の低下や卵白層の黄変は、19世紀の鶏卵紙写真の特徴でもあります。

ゼラチン・シルバー・プリント Gelatin silver print

鶏卵紙の後に広く使われた塩化銀ゼラチン乳剤による焼出し印画紙(Printing out paper, P.O.P.)もゼラチン・シルバー・プリントの一種ですが、銀ゼラチン乳剤を使用し、露光後に現像処理を行って画像を生じさせる近代的な印画紙(Developing out paper, D.O.P.)を指して用いられることが多いのが特徴です。日本での使用例は日露戦争頃から始まったと考えられています。

鶏卵紙に手彩色 Hand-colored albumen print

鶏卵紙による紙焼き写真に手で彩色を施したものの。明治期の日本の写真の特徴付ける、いわゆる横浜写真では、一見カラー写真に見えがうような繊細な色付けが画面全体に施されたものも多々あります。横浜写真は、幕末から明治初年にかけて下岡蓮杖やベアトが創始し、明治20年代から30年代半

コロタイプ印刷 Collotype printing

写真印刷法の一つであるコロタイプの原型は、1855年に考案された写真石版法フォトリソグラフィー(Photolithographie)です。1870年にイギリスのオートタイプ社がこれをコロタイプとして発表しました。この印刷技法は写真の再現に優れており、発表後から急速に普及し、ウッドベリタイプなどの複製技術に置き換わっていきました。比較的少数数の写真印刷などに適しているところから、日本でも卒業アルバムなどの印刷に多用され1960年代まで広く使われました。

📺 展覧会動画

公式ホームページでは、本展担当学芸員によるオンラインギャラリートーク(全7本)を公開しています。



※事業はやむを得ない事情で変更することがございます
最新情報はホームページをご確認ください

138億光年 宇宙の旅

Space Odyssey of 13.8 billion light-years

B1F 2020.11.21|土|-2021.1.24|日|

驚異の美しさで迫る宇宙観測のフロンティア

創立から60年余り、宇宙開発や天体観測に偉大な功績を残してきたNASA—アメリカ航空宇宙局。

本展では、NASAの画像を中心に、観測衛星や惑星探査機、宇宙望遠鏡等がとらえた美しく驚異的な天体写真を選びすぐってご紹介します。

太陽系から、銀河系内の星雲や星団、そしてさらにその先にある無数の銀河や銀河団など、多様な天体の驚異的な姿を大型の高品位銀塩写真プリントでご覧いただけます。

併せて、すばる望遠鏡、アルマ望遠鏡など国立天文台関連の大型望遠鏡による観測成果の一部を美しい画像によりコーナー展示いたします。

2020年は、本展で紹介するハッブル宇宙望遠鏡が打ち上げ30周年を迎え、その他にも火星探査機マーズ・リコネッサンス・オービターの打ち上げ15周年など、宇宙科学の記念すべき年となっています。

サイエンスでありながらアートのごとく見る者を魅了する画像の数々。宇宙の謎や神秘を紐解く人間の英知や科学技術発展の素晴らしさをご体感ください。

【主催】クレヴィス 【共催】東京都写真美術館
【観覧料】一般1,000円 ほか 各種割引あり

3F 白川義員写真展

第一期 永遠の日本 2021.2.27|土|-4.4|日|

第二期 天地創造 2021.4.6|火|-5.9|日|

※本展覧会は上記の日程で展示替えを行います。

世界的写真家で、山岳写真家でもある白川義員の集大成となる2つのシリーズを二期構成で紹介いたします。第一期「永遠の日本」では、日本人の誇りと魂を復興する一助になりたいという作家自身の願いが込められた、崇高で美しい日本の自然を紹介いたします。第二期「天地創造」は、ザ・ウェーブ(アメリカ)、武陵源(中国)、ウユニ塩湖(ボリビア)などを中心に構成された最新作を、かつてないスケール感で再現します。

【観覧料】一般700円 ほか 各種割引あり

【主催】東京都/公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
【協賛】凸版印刷株式会社 【協力】株式会社小学館



月探査機ルナー・リコネッサンス・オービターがとらえた「地球の出」 NASA/Goddard/Arizona State University

【お問い合わせ】株式会社クレヴィス 03-6427-2806
【公式サイト】www.crevis.co.jp

澤田知子展 (仮称)

2F 2021.3.2|火|-5.9|日|

木村伊兵衛写真賞(2004年)をはじめとする国内外の写真賞を受賞し、その作品が国際的にも高く評価される澤田知子(1977-)。本展では、新作《Reflection》を初公開するほか、鮮烈なデビュー作《ID400》を含む代表作を紹介する、国内初の大規模個展です。「内面」と「外見」の関係に関心を持ちながら、アイデンティティの在り方までもを探求し、制作を続ける、澤田の旺盛な制作活動を概観します。

【観覧料】一般700円 ほか 各種割引あり

【主催】東京都/公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

1F HALL / 上映

最新の
上映スケジュールは
こちら▶



1F ベートーヴェン生誕250年/バーンスタイン没後30年 バーンスタイン&ウィーン・フィル ベートーヴェン全交響曲シネコンサート



©Unitel

【お問い合わせ】
楽画会(がくがかい)
TEL.03-3498-2508
(平日9:30-17:30)
【公式サイト】
www.gakugakai.com/9

至高の名演、全9交響曲を一挙上映!

名指揮者レナード・バーンスタインとウィーン・フィルハーモニー管弦楽団による、白熱のコンサート収録映像をスクリーンで!

バーンスタインが、その円熟期にウィーン・フィルハーモニー管弦楽団と取り組んだベートーヴェンの全交響曲演奏会は、今に聴き継がれる至高の名演とされています。

ウィーン楽友協会大ホールをはじめウィーンが誇る世界的な劇場で収録された、その歴史的なライブ映像、全9交響曲を劇場のスクリーンで一挙上映します。

全9曲を5つのプログラムに編成して、各日3プログラムを上映

※上映スケジュールなど詳細はホームページをご確認ください。

上映プログラム

【A】1番 & 3番「英雄」 【B】2番 & 5番「運命」 【C】4番 & 6番「田園」
【D】7番 & 8番 【E】9番「合唱付」

【上映期間】2020.12.1(火)-12.18(金) 【休映日】2020.12.7(月)、12.12(土)、12.14(月)
【料金】当日券(1プログラム)2,800円 各種割引なし

1F 『マロナの幻想的な物語り』

『ロング・ウェイ・ノース 地球のてっぺん』『ホフマニアダ ホフマンの物語』

鼻がハート型のミックス犬マロナの生涯を描くルーマニア・フランス他制作のアニメーション。各国の映画祭で受賞歴を誇る監督のアンカ・ダミアンが、プレヒト・エヴェンス、サラ・マゼッティ、ジナ・トーステンセンといったヨーロッパの若い才能を集結して紡ぎあげた愛とアートと犬の気持ちがいっぱい詰まった作品です。日本語吹替え版では、主人公マロナの声を、女優・創作アーティストのんが務めています。東京アニメアワードフェスティバル2020グランプリ受賞作品。

世界の秀作アニメーションとして『ロング・ウェイ・ノース 地球のてっぺん』『ホフマニアダ ホフマンの物語』も上映いたします。

※上映スケジュールなど詳細はホームページをご確認ください。

【上映期間】2020.12.19(土)-2021.1.3(日) 【休映日】2020.12.21(月)、12.28(月)-2021.1.1(金)

【料金】当日券(各作品):一般1,500円、大学生1,300円、シニア・障害者手帳をお持ちの方1,100円、高校生以下800円 割引料金あり

2021年1月2日、3日限定特別割引料金 | 一般・大学生・シニア・障害者手帳をお持ちの方1,000円、高校生以下無料



© Aparte Film, Sacrebleu Productions, Mind's Meet

【お問い合わせ】リスクット
TEL.047-317-0841 info@riskit.jp

※事業はやむを得ない事情で変更することがございます
最新情報はホームページをご確認ください

支援会員

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、
次の企業・団体に支援会員としてご入会いただきました。

《特別賛助会員》
キャノン(株)
(株)資生堂
全日本空輸(株)
(株)ニコン

《賛助会員》
キャノンマーケティングジャパン(株)
ゲッティイメージズジャパン(株)
大日本印刷(株)
東急建設(株)
凸版印刷(株)
富士フイルム(株)

《特別支援会員》
アサヒグループホールディングス(株)
サッポロ不動産開発(株)
サッポロホールディングス(株)
リコーイメージング(株)

《支援会員》
(株)アール&キャリア
(株)I&S BBDO
あいおいニッセイ同和損害保険(株)
アオイネオン(株)
(株)浅沼商会
旭化成(株)
(株)朝日工業社
朝日新聞社
(株)朝日新聞出版
朝日生命保険(相)
(有)アスペン/POLARIS
(株)アマナ
(株)岩波書店
(株)潮出版社
(株)栄光社
(株)エージーピー
(株)ADKクリエイティブ・ワン
SMBC日興証券(株)
NHK営業サービス(株)
(株)NHKエデュケーション
(株)NHKエンタープライズ
(株)NHKグローバルメディアサービス
(株)NHK出版
(株)NHKテクノロジーズ
(株)NHKビジネスクリエイティブ
エルメス財団
オリンパス(株)
(株)オンワードホールディングス
カールツァイス(株)

花王(株)
加賀電子(株)
鹿島建設(株)
(株)KADOKAWA
カトーレック(株)
神奈川新聞社
カメラショップ(株)
(株)カメラの三和
(株)かんば生命保険
(株)キクチ科学研究所
(株)キタムラ
キッコーマン(株)
(株)紀伊國屋書店
ギャラリー小柳
共同印刷(株)
(一社)共同通信社
空港施設(株)
(株)久米設計
グローリー(株)
(株)ケー・アンド・エル
興亜硝子(株)
(株)弘亜社
(株)廣濟堂
(株)講談社
(株)光文社
(株)国書刊行会
(株)コスモスインターナショナル
小山登美夫ギャラリー(株)
佐川印刷(株)
三菱石油(株)
三機工業(株)
産経新聞社
サンリーホールディングス(株)
(株)サンライズ
(株)ジェイアール東日本企画
JSR(株)
JXTGホールディングス(株)
(株)JTB
(株)シグマ
(株)実業之日本社
信濃毎日新聞社
清水建設(株)
(株)写真弘社
写真の学校/東京写真学園
チャンネル(同)
(株)集英社
シュッピン(株)
(株)小学館
城西国際大学メディア学部
松竹(株)
信越化学工業(株)
(株)新潮社
(株)スタジオアリス

(株)スタジオエムジー
(株)スタジオジブリ
(株)SUBARU
住友化学(株)
住友生命保険(相)
(株)住友倉庫
(株)生活の友社
セイコーホールディングス(株)
双日(株)
ソニー(株)
損害保険ジャパン(株)
第一生命保険(株)
(株)紀伊國屋書店
(株)ダイケンビルサービス
台新國際商業銀行
大成建設(株)
(株)大丸松坂屋百貨店
大和証券(株)
(有)タカ・インシギャラリー
(株)高島屋
(株)宝島社
(株)竹中工務店
(株)タムロン
(株)丹青社
(株)中央公論新社
中外製薬(株)
(株)TBSテレビ
デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム(株)
(株)テレビ朝日
(株)テレビ東京
電源開発(株)
(株)電通
東亜建設工業(株)
東映(株)
東急(株)
(株)東京印書館
東京空港交通(株)
東京工科大学/日本工学院
東京工芸大学
東京新聞・中日新聞社
(株)東京スタデオ
東京造形大学
東京総合写真専門学校
東京建物(株)
東京地下鉄(株)
東京テアトル(株)
東京都競馬(株)
(株)東京ドーム
(株)東京ニュース通信社
(学)専門学校 東京ビジュアルアーツ
(株)東京美術倶楽部

東京メトロポリタンテレビジョン(株)
(株)東芝
東宝(株)
(株)東北新社
(株)東洋経済新報社
(株)徳間書店
戸田建設(株)
(株)トロンマネージメント
(株)ニコンイメージングジャパン
日油(株)
日活(株)
(株)日経BP
日光ケミカルズ(株)
(株)日本カメラ社
日本空港ビルデング(株)
(株)大丸松坂屋百貨店
日本航空電子工業(株)
(株)日本広告社
(公社)日本広告写真家協会
日本写真印刷コミュニケーションズ(株)
(公社)日本写真家協会
(公社)日本写真協会
日本写真芸術専門学校
(一社)日本写真文化協会
日本生命保険(相)
日本大学芸術学部
(株)日本デザインセンター
日本テレビ放送網(株)
(株)ニッポン放送
日本レコードマネジメント(株)
日本ロレックス(株)
(株)ニューアートディフェュージョン
野村證券(株)
(株)博報堂
(株)博報堂DYメディアパートナーズ
(株)博報堂プロダクツ
(株)ハースト婦人画報社
(株)ハーツ
バナソニック(株)
(株)パラゴン
びあ(株)
北海道 写真の町東川町
東日本旅客鉄道(株)
光写真印刷(株)
ピクトリコ
(株)美術出版社
(株)ビックカメラ
(株)ピラミッドフィルム
(株)ファーストリテイリング

(株)フェドラ
(株)フジテレビジョン
(株)フジヤカメラ店
(株)プリンスホテル
(株)フレームマン
プロフォト(株)
(株)文化工房
(株)文藝春秋
北海道新聞社
(株)ホテルオークラ東京
本田技研工業(株)
毎日新聞社
(株)マガジンハウス
丸善(株)
マルミ光機(株)
(株)マンダム
(株)みずほ銀行
三井住友海上火災保険(株)
三井倉庫ホールディングス(株)
三井不動産(株)
(株)三越伊勢丹 三越恵比寿店
三菱地所(株)
三菱製紙(株)
三菱倉庫(株)
三菱電機(株)
三菱UFJ信託銀行(株)
(株)ミルボン
武蔵大学
明治安田生命保険(相)
森ビル(株)
ヤマトグローバルロジスティクスジャパン(株)
(株)吉野工業所
(株)ヨドバシカメラ
読売新聞社
ライオン(株)
ライカカメラジャパン(株)
(株)良品計画
(株)ロボット
(株)ワコウ・ワークス・オブ・アート
(株)ワコール

(株)=株式会社、(相)=相互会社、(有)=有限会社、(学)=学校法人、(公社)=公益社団法人、(同)=合同会社、(一社)=一般社団法人

(令和2年10月末日時点・五十音順)

2F SHOP
ミュージアム・ショップ

NADIFT
BAITEN

展覧会に合わせて、品ぞろえがガラリと変わるミュージアム・ショップ。写真集や関連書籍はもちろん、グッズ類も豊富です。和紙でできた温かみのある花瓶カバー「かみのかびん」や植物の美しい形を閉じ込めた「Sola cube」など、冬のギフトにぴったりな商品も取りそろえております。

かみのかびん 延筒(2種) 1,320円(税込)
Sola cube 各種 3,938円~8,778円(税込)



詳細ページはこちら▼



営業時間/10:00-18:00 TEL/03-6447-7684
定休日/毎週月曜日 ほか
(美術館の休館日に準じます。詳細は裏表紙をご覧ください。)

1F CAFE
カフェ MAISON ICHI
BOULANGER-PÂTISSIER-TRAITEUR-CHARCUTIER

LUNCH MENU (11:30-15:00)
本日のキッシュ(自家製パン付き) 1,200円
季節のラザニア(自家製パン付き) 1,200円
自家製パン、ドリンクはお持ち帰りできます
自家製バゲットのピザ 380円~
ぶるぶる生ブルマン 1斤 480円 1.5斤 680円
ドリンクバー(コーヒー・カフェラテほか) 380円
アルコール類もあります。
メニューは予告なく変更される場合があります。(価格はすべて税抜)

詳細ページはこちら▼



営業時間/11:00-18:00 TEL/03-6277-3862
定休日/毎週月曜日 ほか
(美術館の休館日に準じます。詳細は裏表紙をご覧ください。)

SCHEDULE / スケジュール

展覧会・イベント・上映の最新情報は、
topmuseum.jpまたはこちらへ▶



	3F	2F	B1F	1F
2020 12	日本初期写真史 関東編 幕末明治を撮る (収)	瀬戸正人 記憶の地図 (企)	138億光年 宇宙の旅 11.21(土) - 2021.1.24(日)	バーンスタイン&ウィーン・フィル ベートーヴェン 全交響曲シネコンサート 12.1(火) - 12.18(金)
2021 1	12.1(火) - 2021.1.24(日)	12.1(火) - 2021.1.24(日)		
2	第13回恵比寿映像祭 2.5(金) - 2.21(日)			
3	白川義員写真展 永遠の日本/天地創造 (収)	澤田知子展(仮称) (収)	日本の現代写真 1985-2015	『マロナの幻想的な物語り』
4	2.27(土) - 5.9(日)	3.2(火) - 5.9(日)	JPS 70周年記念展(仮称) 3.20(土・祝) - 4.25(日)	『ロング・ウェイ・ノース 地球のてっぺん』 『ホフマニアダ ホフマンの物語』
5				12.19(土) - 2021.1.3(日)

(収) 収蔵展 (企) 企画展

「ぐるっとパス 2020」の詳細はこちら▶



図書室のご案内

写真集を中心に、展覧会カタログ、写真と映像に関する図書、専門雑誌など国内外の資料を11万2千冊以上所蔵しています。閲覧を希望する方はどなたでも、無料で利用できます。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、現在、図書室のご利用は、2時間ごとの定員入替制(最大12名)としています。

ご利用時に確実に閲覧したい資料がある場合は、事前のご予約をお勧めいたします。

予約方法の詳細はこちら▶



割引料金について

割引対象

展覧会を割引料金にてご覧いただけます

各種会員の方 観覧料が2割引

JRE CARD
(2018年7月2日にアトレビューSuicaカードより移行のクレジットカード)

MIカード(三越伊勢丹グループのクレジットカード)

ウェルカムカード(訪日外国人向けの割引カード)

当館映画鑑賞券提示者

東京都歴史文化財団他館友の会、年間パスポート会員

JR東日本「大人の休日倶楽部」カード

無料対象

展覧会を無料でご覧いただけます

小学生以下

障害者手帳提示者及びその介護者(2名まで)

被爆者手帳提示者及びその介護者(2名まで)

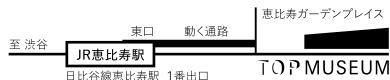
愛の手帳・療育手帳提示者及びその介護者(2名まで)

精神障害者福祉手帳提示者及びその介護者(2名まで)

東京都内在住・在学の中学生

※教育活動(スクールプログラムなど)で当館をご観覧希望の生徒と引率者は事前申告が必要です。当館までお問い合わせください。

東京都写真美術館 TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM



JR恵比寿駅東口より徒歩約7分、東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分※当館には専用駐車場はありません。恵比寿ガーデンプレスの駐車場を御利用ください。

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内 Tel.03-3280-0099 topmuseum.jp

開館時間 10:00-18:00 ※入館は閉館30分前まで。

休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は開館、翌平日休館)、年末年始(12/29-1/1)。最新情報はホームページをご確認ください。

東京都写真美術館ニュース「アイズ2020」103号 □発行日:2020年12月1日/企画・編集:東京都写真美術館事業企画課 企画広報 □印刷・製本:株式会社公栄社 □発行:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館©2020 □本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。※本誌編集ページに掲載されている観覧料は、原則として消費税込みの価格です。事業内容は予告なく変更される場合があります。最新の情報はホームページをご覧ください。

